

令和 6 年度の取り組み

令和 6 年度は、「カリキュラム運営」に関しては、助産師学科・看護学科ともに新カリキュラムがスタートして 3 年目であり、看護学科では、1～3 年生までの全ての学年が新カリキュラムでの運用となりました。旧カリキュラムで入学した学生には、新カリキュラムの科目を履修する場合の読み替えや、読み替えができなかった科目の補習講義・補習実習を滞りなく実施し、単位の修得に向けて全教員で一丸となってサポートする体制と環境づくりに取り組みました。

「入学生確保」では、看護学科入学生が、前年度（令和 6 年度）102 名と前々年度（令和 5 年度）の 79 名から約 3 割増となったことから、令和 6 年度は、更なる入学生の確保を目指して、進路指導担当教員等向け学校説明会の実施回数の増（1 回→2 回）、個別学校説明会の新規実施のほか、少人数相談会、指定校訪問、オープンキャンパスを実施しましたが、結果として令和 7 年度入学者は 79 名にとどまりました。

一方、助産師学科の実習施設の確保は、令和 6 年度も実習施設と調整を重ねたにもかかわらず、お産（通常分娩）の数の減少などにより、令和 7 年度に向けた実習受入施設・人数が減（13 施設 28 名分→12 施設 26 名分）となり、結果として入学生の 2 名減につながりました。

自己点検・自己評価

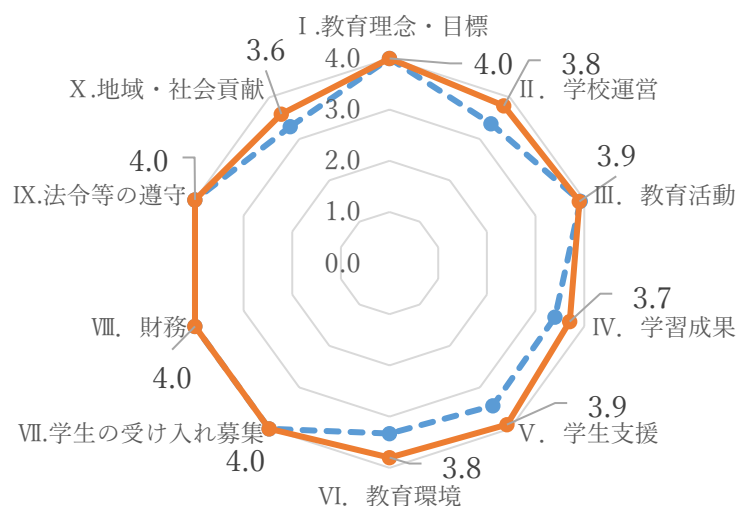
社会の変化に伴い医療・看護に対するニーズが多様化する中で、地域医療や福祉の現場に質の高い看護を提供できる助産師・看護師を育成することは、本校の責務であると考えます。

こうした中、本校では、教育の質の向上を目的に、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、Ⅰ. 教育理念・目標、Ⅱ. 学校運営、Ⅲ. 教育活動、Ⅳ. 学修成果、Ⅴ. 学生支援、Ⅵ. 教育環境、Ⅶ. 学生の受入れ募集、Ⅷ. 財務、Ⅸ. 法令等の遵守、Ⅹ. 地域・社会貢献という 10 の大項目と 59 の小項目について評価を行っています。

評価尺度は、適切（4 点）・やや適切（3 点）・やや不適切（2 点）・不適切（1 点）の 4 段階評価となります。

令和6年度 神奈川県立衛生看護専門学校 自己点検・自己評価

—●— 令和5年度 —●— 令和6年度



結 果

全体の平均は 3.8（前年度 3.6）でした。昨年度と比べ、「V. 学生支援」、「VI. 教育環境」は、特に評価の伸びが高くなっています。「V. 学生支援」は、本校の強みを活かし早くから助産師学科への進学指導に力を入れたこと、実習中の感染予防対策や健康管理に取り組めたこと、「VI. 教育環境」は、助産師学科、看護学科ともに、適切な環境・教育体制の下、実習調整を行いながら、実習に取り組めたことが主な要因と考えられます。

「II. 学校運営」は、Wi-Fi 環境の整備が課題となっていますが、一部機器の整備を進めることができました。今後は、所期の目標である令和 8 年度中の全面的な整備に向けて県健康医療局ともしっかり連携を図りながら着実な整備に努めてまいります。

「VII. 学生の受け入れ募集」では、入学生確保に向けて、オープンキャンパス、少人数相談会の取組みを充実させ、新規に個別学校説明会等に取り組んだことについて評価を行っていますが、結果として入学生が 79 名（前年度 102 名）に留まったことから、令和 8 年度に向けては、学校推薦型選抜の公募枠を全国に広げるなど、改めて入学生の確保に向けた工夫を図っていきます。

「IV. 学習成果」、「X. 地域・社会貢献」は、他と比較すると、やや低い評価となっています。「IV. 学習成果」は、看護学科、助産師学科ともに県内就職率の改善に取り組んでいますが、さらに改善の余地があると考えていることが主な要因と考えられます。また、「X. 地域・社会貢献」は、助産師学科における施設でのボランティア要請がなく参加できなかったこと、看護学科においては、ボランティア活動の説明が不十分だったことが主な要因と考えられます。

令和 6 年度の評価結果を踏まえた今後の対応ですが、特に入学生の確保に向けてしっかりと取り組むとともに、Wi-Fi 環境の整備の早期実現も含め、引き続き、多様な学生に合わせた支援や適切な学校運営ができるよう努めてまいります。